

令和7年（2025年）1月20日外部評価実施
緑地地域包括支援センター（中東部圏域）

「評価結果の概要」

センターが把握している圏域の特徴 2024年11月1日現在

【圏域の人口等】

圏域人口：49,753 人

高齢者人口：12,062 人

高齢化率：24.24%

【圏域の地域特性】

・吹田市に隣接した、南北、縦に長い地域となっており校区ごとに特徴があります。圏域内高齢化率は南にいくほど上昇します。寺内 18.92% 緑地 23.59% 北条 26.12% 小曽根 25.17% 高川 25.81% 豊南 28.74% 高齢化率は全校区ともに概ね横ばいとなっています。

・北部はマンションや戸建て住宅に住まう方が多く、坂道が多い地形上の課題もあり、歩行が不安になると閉じこもり傾向になる方が増え、要援護者の潜在化の可能性が高くなっています。寺内・緑地校区は顕著で買い物や通院など生活課題が表出しています。

・坂道が少ない地域も駅まで距離があり、スーパーやドラッグストア、クリニックは神崎刀根山線沿いに多く生活の中心になっています。

・南部は高齢化率と合わせて、独居率も高くなっています。長く暮らしている方が多く、隣近所の顔見知った強いコミュニティはあるが、近頃は世代交代も進んでいます。相談は、経済面、住まいに関すること、家族に関することなど内容は複雑多岐に渡っており、民生委員、福祉事務所、警察等との連携の機会も多くなっています。

・全校区とも、認知症に関する相談（未受診やサービス拒否など）や権利擁護に関する相談が増えており、コロナ禍以降は、医療・保健、介護者支援の相談も増えていきます。

【医療・介護資源】

・入院病床をもつ病院、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、小規模多機能型居宅介護等の施設、居宅介護支援事業所や訪問介護・看護などの在宅支援の事業所のネットワークのもと、いずれも地域包括の活動に協力的で地域貢献活動に熱心に取り組まれています。

取組方針や特徴

【センターの運営方針】

一人一人の高齢者の困りごとや相談に迅速で丁寧な総合相談支援を行っています。地域福祉関係者、医療機関、介護事業所、社会福祉協議会、行政機関、様々な機関との有機的なネットワークづくりをめざし、地域包括ケアシステムの構築を意識し取り組んでいます。

職員の地域に対しての「やりたい」を実現できるように、全員で意見交換を重ね取り組んでいます。

【特に力を入れて活動している点】

・地域ごとに担当を決め関係各所に出向き情報交換や共有を直接行うことで、地域の現状の把握、潜在ケースの早期対応、連携強化に努めています。

・医療・介護・福祉など支援の切れ目がなく高齢者が住み馴れた地域で暮らし続けることができるよう様々な関係者のネットワークの強化を目的に、交流会や高齢部会などを開催しています。

・金融機関、コンビニ、スーパーなどの商業施設、喫茶店や寺社など高齢者の生活の必要なところとも連携し、認知症の人への支援や虐待ケースの早期発見などを強化しています。

・権利擁護（高齢者虐待や成年後見制度など）の大切さを、地域住民や専門職に多く伝え地域全体で高齢者が安心して暮らし続けることができることを考えてもらえるよう取り組んでいます。

・認知症地域支援推進員が中心となり、認知症の理解や共生、予防などを理解してもらえるよう、認知症サポーター養成講座、認知症カフェ、地域教室などを通じ、幅広く普及啓発できるよう取り組んでいます。認知症サポーター養成講座は、小学生向け、介護従事者向けなど様々なバリエーションで計6回開催しました。

【活動の中での課題やその解決策】

- ・ 困難事例ケースの振り返りが難しくなっています。
→ 包括内のOJT研修を利用し困難ケースの振り返りを行いました。ただし、困難ケースは数多くあるため、振り返りの難しさを感じています。
- ・ 昨年に引き続き認知症についての理解を深めてもらうために活動を重ねています。
→ 千里山病院でオレンジカフェの立ち合い支援を行いました。介護予防や認知症予防の両方の要素を取り入れた運営となっています。また、小学校（寺内・北条）で認知症サポーター研修を実施しました。今後も教育機関等へのアプローチを続け、多世代で認知症の理解を深めていきます。
- ・ 昨年に引き続き認知症についての理解を深めてもらうために活動を重ねましたが、地域の担い手を探すまでには至りませんでした。
→ 地域の活動者（担い手）を探すため、実態把握を続けます。地域の住民や専門職に社会資源の拡充（つどいの場が増える）の必要性を啓発し続けます。

総評

【特徴的な取組内容】

- 高齢者の主体性を引き出す工夫では、地域教室に参加している市民にアンケートを実施し、市民が興味をもち、やってみたいと思える活動内容の拡充に取り組まれています。
- 介護支援専門員の資質向上では、介護支援専門員からの意見を基に、勉強会の内容に優先順位を考慮されており、介護支援専門員が興味ある、参加したい会となるよう取り組まれています。

【さらなる質の向上の余地がある点】

- 目的と今後の見通しを明確にし、達成度・成果が確認できるよう内容の拡充を期待します。
- 重層的支援が必要なケースが増加している中、多職種会合の規模が大きくなってきていることから、継続して開催可能で、かつ参加者の意欲や参加意義が持続されるような工夫の拡充に期待します。
- 地域でのさまざまな展開に期待がもてる一方で、関係機関、地域住民等と目的を共有しつつ、より一層連携を深めた、持続可能な体制及び方法での実施が望まれます。